

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第61号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

8月焼津福祉文化共創研究会定例会議論 これまでの活動を振り返り 気になる“ご近所”の現状を語る

今年度の本会の活動テーマは「これまでの活動5年間の調査事業実績から“ご近所福祉”を検証する」を掲げている。令和元年度に結成してから、取り組んできた調査事業をここで、改めて取り上げると、

- *1年目(令和元年度)「港地域の団体・グループ状況調査」(港地域のつながる・ささえあう集まる居場所検証)
- *2年目(令和2年度)「ご近所福祉その意識と実態調査」(大人の福祉意識検証)
- *3年目(令和3年度)「福祉ってなに?244名の子どもたちに聞きました調査」(児童の福祉意識検証)
- *4年目(令和4年度)「ホッとする、安心した地域づくり その意識と実態調査」(高齢者の福祉意識検証)
「ご近所の支え合いを誰が担うか検証講座」(これまでの3年間の取り組み検証)
- *5年目(令和5年度)「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」(中学生の福祉意識検証)

これまで、取り組んできた調査では、それぞれ世代共通の「調査設問」を取り上げ、考察をしてきた。

全ての世代で「ご近所福祉は大切である」と回答しながらも、現状では、どのような関わり方をすればよいのか、身近な生活圏域の日常生活における課題は多いように受け止められる。

8月17日に開催した「第65回定例会」から、意見を交わし合った内容を紹介する。

- (1)ご近所は、高齢者世帯が多くなっている。最近、地震や水害等が各地で発生している。各家庭では、非常持ち出し品等の点検をしているが、高齢者の意識の中に、防災対策が弱いと感じる。災害が発生したとき、どうなるか心配である。地域住民すべてが、まずは「自助」努力することを心掛けたい。
- (2)市内の活動集団の集会に参加して思うことは、それぞれの会員に、活動の目的意識が希薄していると感じている。それぞれの領域におけるリーダーの認識を自覚してほしい。また、こうした働きかけは、これから大きな課題となる。
- (3)焼津市内の各領域の運営・取り組み状況を「資料情報」として、これまで、自治会・町内会組織に託して配布(発信)をしてきた。
最近、自治会・町内会単位で、役員の活動負担が表面化し、配布を取りやめる動きがある。
これまで、長きにわたり維持してきた、ご近所における「回覧板の仕組み」を、改めて、「回覧板のもつ意味」を理解し合い、各地域住民が、地域を知るうえで、どのような組織運用方法が求められるか、地域住民全体で考えるべき案件であり、単に、役員で、配布を拒否する状況は大きな問題を生じさせる。円滑なコミュニティの運営を考えると、「情報」を共有し、これからのコミュニティ組織の運営のあり方を問う時期が来ている。毎月開催する組長会内容を回覧している地域がある。
- (4)「福祉の原点は、家庭家族」そして、その延長上に「親戚」関係がある。
こうしたつながりを、これまでの親たちは、日常の生活の中でつなぎ、子どもたちもそれぞれの関係づくりを維持してきた。大人社会(親)が、いかに、子どもたちに、家族や親せき、地域を繋ぐことが出来るかこれからの課題がある。
- (5)静岡県内各地で、さまざまな「コミュニティ活動」に取り組んでいる「実践事例」を学んだ。
*小学校区における各種団体(49団体)等が連携・協働でコミュニティ活動に取り組み、地域行事を維持発展させるためにするために、地域住民に、常に「つなぐ」「見える化」に努力している。
*既存の「さわやかクラブ」が解散し、管内高齢者の集まる場所の開拓を自治会と協働で取り組む。
*大人だけの居場所から、親たちの交流の延長上で、各世帯の理解と協力の基にもう一つ、子どもの交流の場(居場所づくり)に取り組む。
*地域特性として、外国人労働者の受け入れと、日常生活の共生の維持の課題が大きい。地元自治会関係者で立ち上げている「多文化共生社会を考える会」の理解のもとで、新たな地域づくりをめざす。

▶ご近所福祉とは...

1. お互いを認め合う
2. 対等である 上下をつくらない
3. 見返りを求めない
4. 継続的である
5. 無理がない

ご近所福祉 = おすすめ

共創社会実現研究会経過報告 ⑤

「ご近所福祉の検証」を、本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動(広域団体)助成事業:若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」に、本会は協働で取り組んでいる。

今回(第5回目)は、「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」の「第5章 かるた事例紹介」編集経過を掲載する。なお、「事例集」完成後は、「シリーズ」で、各領域における「事例」を掲載予定。

6月までに実施した「かるた活用状況調査」回答から、各領域のかるたの活用内容を参考にし、このたび発行する「かるた活用事例集」の「第5章 紹介します 各世代・領域の活用事例」では、「家庭・家族」「居場所サロン」「コミュニティ」「福祉施設」「学校」「福祉団体」「その他:拡大かるた」の「各領域別活用項目」にし、さらに、「従来型(かるた取り)活用方法」「グループワーク的活用方法」「課題解決型活用方法」「その他の活用方法:ジャンケンゲーム・絵合わせゲーム・伝承ゲーム」等の活用方法を提示している。各事例は、下記の項目により、具体的な展開方法を方向づけている。



進め方

楽しさの工夫

留意点

8月8日に、漫画家 法月理栄様(静岡県キャラクター“ふじっぴー”作者・本会かるたの絵札作者)と「各種事例紹介」に、「イラスト」を組み入れたい旨相談をした。ご多忙の中、精力的に、一週間の短期間で、「19点のイラスト」を作画していただいた。上記イラストは、「家族・家庭 高齢者自身の学習」の事例に組み込まれている。

焼津福祉文化共創研究会 事務局日誌拝見(8/1~9/1)



本会QRコード



考える会QRコード

- 8/01 「焼津福祉文化共創研究会通信第60号」編集・発行、配布及びメール送信
- 8/04 協働団体(考える会)助成事業「かるた活用事例集」校正作業(~8/28)
- 8/08 協働団体(考える会)助成事業「かるた活用事例集」第5章:活用事例に漫画家 法月理栄様とイラスト組み入れ協議 その後、作画制作依頼
- 8/17 焼津市V連絡協議会代表者会に出席 9月定例研究会開催
- 8/30 協働団体(考える会)助成事業「かるた活用事例集」印刷業者に入稿
- 9/01 「焼津福文共創研究会通信第61号」編集・発行、配布及びメール送信



シリーズ⑤ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「く」「け」 *問い合わせは、事務局まで



みんなの目がある地域は安心安全です。ご近所力で「防犯(安全)」強化を日常日頃から心がけましょう。



一人より二人、二人よりみんなだと続くようです。「健康づくり」はご近所さん同士で「地域の輪」づくり。